2026 展望 トップインタビュー

# 荏原製作所

## 細田 修吾 社長

# 持続可能社会実現で存在感

◆…2035年の売上収益目標を、約2倍の2兆円以上に定めました。

「売上収益は、20年の5000億円台から前中計で急成長した半導体関連の貢献が大きいが、エネルギーや建築産業なども順調に伸びている。半導体市場は今後さらに異次元の拡大を遂げるとされており、10年後には売り上げの半分、利益の3分の2程度までが半導体関連となりそうな印象があるが、社会・産業インフラも事業領域とするポートフォリオが当社の強みだ。今中計ではこのモメンタムを持続させるグローバル経営基盤を確立し、持続可能社会の実現に欠かせない存在感を示したい」

◆…エネルギー関連事業の見通しは。

「低炭素エネルギーとして需要が拡大する液化天然ガス（LNG）はとくに米州での投資が活発であり、引き続き受注に力を入れる。中国は産業全般としては低迷しているが、一部エネルギー関連は好調で、石炭化学が動き出した感がある。中東は投資の意志決定延期が懸念されるが、全社の売上収益に占める中東比率は約6％と低い。中東情勢の全社的な影響についてはこれから精査していく」

◆…水素や脱炭素関連の取り組み状況は。

「これまでコーポレートプロジェクトとして取り組んできた水素事業は受注も始まり、今期からエネルギーセグメントに統合した。このほど川崎市で建設が進められている液化水素基地において、主要部品の一つとなる液化水素昇圧ポンプと極低温水素リターンガスブロワが採用された。世界の水素プロジェクトは淘汰されつつあるが、豪州や欧州などで並行して進む複数案件には何らか関与し、いずれ必要となる機器を納められるよう準備している。千葉県富津市に建設中の水素向け製品の出荷前試験・開発センターを今下期にも竣工する。これほどの体制を整えているのは世界的にもあまりない。また発電向けにアンモニア用ポンプを受注したほか、CCSではCO2（二酸化炭素）コンプレッサーなどを納められるようアプローチしている。脱炭素関連の製品群が増えつつある」

◆…精密・電子セグメントの見通しは。

「前期の後半ごろからユーザーの投資計画が急増しており、今期は大幅な伸びを見込んでいる。過去3年間で生産能力と研究開発の両面で投資を行い、30年ごろまでの需要に対応できる体制を整えている。ただこの分野ではスピードが求められるため、さらなる需要に対しては、今中計の後半ごろにも対応していく必要がありそうだ」

◆…建築・産業セグメントの重点施策は。

「建築・産業の事業領域は幅広く、半導体も対象となる。半導体関連事業と連携してプロセス開発段階からの提案を強化すればもっと伸ばせる。事業譲受予定の三菱電機の三相モーターとポンプなどの統合を進め、省エネ技術などに磨きをかけていく」

（石井惇子）

**記者の視点**

長期ビジョン「E―Vision2035」では、3本柱となるグローバルビジネスセグメントに精密・電子、建築・産業、エネルギーを位置づけ積極投資による成長を目指す一方、日本起点ビジネスセグメントにインフラ、環境を位置づけ国内市場を中心としつつも課題先進国としての知見を世界へ展開する。納入製品のデータを活用した全社共通の情報基盤の構築も進めており、これを活用した事業展開が注目される。